

障害科学研究

2024年3月31日発行

第48巻

原 著

- 1 篤田 直人・小林 秀之
弱視生徒の自尊感情
—コンピテンス感と重要度評価の関係—

資 料

- 11 青木 康彦・野呂 文行
自閉スペクトラム症児における玩具と食物の好みと強化価
- 21 池田 彩乃
自立活動の指導における肢体不自由特別支援学校教師の対人葛藤とその対処方略
- 35 加藤 雅子・米田 宏樹
知的障害特別支援学校の「遊びの指導」に含まれている教科等の実態
—A県立B特別支援学校の事例から—
- 47 三嶋 和也・池田 彩乃・阿部 晃久
高等学校に在籍する肢体不自由生徒の教育的ニーズに関する調査
—センター的機能における相談内容の分析を通して—
- 57 Rika ENOKIDO, Atsuko SATO and Hideki SAKAI
A Comparison of Presentation-Practice-Production and Task-based Language Teaching Approaches for
L2 Vocabulary Learning of Sign Language
- 73 岸良 隼人・田所 涼・中前 佑月・米田 宏樹
東京23区の知的障害特殊学級及び特別支援学級における学級名の特徴

実践報告

- 87 宮野 雄太
知的障害のある児童のタイピング練習ソフトを使ったタイピング学習と学習後の
タイピング活用機会からの検討
—速さ向上と日常場面での活用を目指した実践—



投稿規定

1. 本誌は、障害科学学会の機関誌であり、年1巻発行する。なお巻号は前身の雑誌である「心身障害学研究」を引き継ぐものとする。
2. 本誌の執筆者は障害科学学会会員に限る。
3. 本誌の編集は、障害科学学会編集委員会の責任のもとに行われる。
4. 本誌には未公開の和文または英文で書かれた障害科学に関する「原著論文」、「資料論文」、「短報」、「展望論文」などオリジナルな学術論文、実践報告会等でモデルとなりうるような「実践報告」のほか、編集委員会が認めた論文等を掲載する。
 - (1) 原著論文は、理論、実験、事例、実践等に関する研究論文とする。
 - (2) 資料論文は、原著論文に準じた内容で、資料性の高い研究論文とする。
 - (3) 短報は、研究成果の速報や一次的な報告とする。
 - (4) 展望論文は、障害科学に関係のある課題について、内外の諸研究の成果を概観し、総合的に展望した研究論文とする。
 - (5) 実践報告は、実践報告会、事例研究会等でモデルとなりうる報告とする。
5. 論文は、査読委員によって審査され、編集委員会において、その掲載の可否が決定される。
6. 規定枚数を超過したもの、および図表、写真等の製版・印刷等、特に費用を要するものは、別途執筆者の負担とする。
7. 別刷りは執筆者の負担とする。
8. 本誌に掲載された論文等の著作権は障害科学学会に帰属し、無断で複製あるいは転載することを禁ずる。
9. 投稿論文の内容について、十分に人権および倫理上の配慮がなされていなければならない。

執筆規定

1. 原稿の仕様 原則としてワープロを用い、A4判用紙に25字×32行（800字）で印字された原稿を提出すること。A4判用紙の原稿2.5枚は刷り上がり1頁に相当する。和文では、本文、文献、図表、要約をすべて含めた論文の刷り上がり頁数は、原著論文、資料、実践報告、展望は10頁を上限とする。英文では、本誌8頁（approximately 550 words per page; including Abstract, References, Tables, and Figures）を上限とする。また、短報は和文で5頁、英文で4頁とする。これを超過する論文については、編集委員会で掲載の可否を決定する。
2. 提出原稿 原著論文・資料ともに、オリジナル1部とコピー2部を添えて提出すること。また提出原稿はA4判とし、表紙には和文表題、英文表題、執筆者名、代表者の連絡先（電話番号を含む）を明記すること。なお、論文採択後には電子ファイルを提出する。
3. 図表など 白紙に黒色インクで明瞭に書かれたものを用い、写真を用いる場合は鮮明なものを提出すること。表や図の番号はTable 1, Fig. 1のように記入し、表題、説明ともに一括して別紙に記載すること。また、本文中にその挿入箇所を明示すること。
4. 和文要約 和文論文および英文論文には、問題、方法、結果、結論の大意をほぼ把握できるように、和文で400字以内の要約と3～5項目の和文キーワードを本文とは別葉にて提出すること。
5. 英文要約 和文論文および英文論文には、英文表題、200～300ワードの英文要約、3～5項目の英文Key Wordsを本文とは別葉にて提出すること。
6. 表記 新かなづかい、常用漢字、算用数字を用いること。外国人名・地名等の固有名詞以外はなるべく訳語を用い、必要な場合は初出の際にだけ原語を付す。文献は論文の最後にアルファベット順に一括して示すこと。雑誌文献記述の形式は、著者名、発行年、題目、雑誌名、巻数、論文所在頁の順とし、単行本文献記述の形式は、著者名、発行年、書名、出版社、出版地の順とする。
7. 註 必要がある場合は、本文中に1)、2) …のように上付きの通し番号で註を付し、すべての註を本文と文献欄の間に番号順に記載すること。
8. 印刷形式 印刷の体裁は編集委員会に一任する。
9. その他 執筆に関する詳細は、日本特殊教育学会の『「特殊教育学研究」和文論文執筆の手引き』と、最新のJournal of Special Education Researchの表紙裏Information for Contributorsに従うこと。

編集委員長	野呂 文行 (筑波大学)			
編集委員 (理事)	相澤 宏充 (福岡教育大学)	岡崎 慎治 (筑波大学)		
	河合 康 (上越教育大学)	小林 秀之 (筑波大学)		
	小林 宏明 (金沢大学)	左藤 敦子 (筑波大学)		
	佐藤 将朗 (上越教育大学)	塩川 宏郷 (実践女子大学)		
	園山 繁樹 (筑波大学名誉教授)	高野 聡子 (東洋大学)		
	宮本 昌子 (筑波大学)	米田 宏樹 (筑波大学)		
	査読委員	魚野 翔太 (筑波大学)	岡崎 慎治 (筑波大学)	
岡 典子 (筑波大学)		川間健之介 (筑波大学)		
小島 道生 (筑波大学)		小林 秀之 (筑波大学)		
佐々木銀河 (筑波大学)		佐島 毅 (筑波大学)		
佐藤 将朗 (上越教育大学)		左藤 敦子 (筑波大学)		
園山 繁樹 (筑波大学名誉教授)		竹田 一則 (筑波大学)		
高橋 甲介 (長崎大学)		丹野 傑史 (長野大学)		
高野 聡子 (東洋大学)		武居 渡 (金沢大学)		
柘植 雅義 (筑波大学)		任 龍在 (千葉大学)		
野呂 文行 (筑波大学)		半田 健 (宮崎大学)		
真鍋 健 (千葉大学)		本間 貴子 (国土館大学)		
宮本 昌子 (筑波大学)				
編集幹事		小泉 愛美 (筑波大学)	周 英實 (筑波大学)	

障害科学研究

第48巻 (2024, Vol. 48)

令和6年3月31日発行

編集 障害科学学会 編集委員会
発行 障害科学学会 会長 園山 繁樹

発行所 障害科学学会
〒305-0836 茨城県つくば市山中152-4
e-mail info@adsj.gr.jp

印刷所 前田印刷株式会社筑波支店
〒305-0836 茨城県つくば市山中152-4
電話 029 (875) 6696

	Original articles
1	Naoto TOKUDA and Hideyuki KOBAYASHI Self-Esteem of Students with Low Vision: Relationship between Sense of Competence and Importance Rating
	Brief Notes
11	Yasuhiko AOKI and Fumiyuki NORO Comparing Preferences for Toys and Food and Their Reinforcing Efficacy in Children with Autism Spectrum Disorder
21	Ayano IKEDA Interpersonal Conflicts and Coping Strategies of Teachers in Special Needs Schools for Children with Physical Disabilities in Teaching <i>Jiritsukatsudo</i>
35	Masako KATO and Hiroki YONEDA Incorporating “Subjects and etc.” in “Play Instruction” at Special Needs Schools for Students with Intellectual Disabilities: A Case Study of Prefectural Special Needs School B
47	Kazuya MISHIMA, Ayano IKEDA and Abe AKIHISA A Survey on the Educational Needs of Children with Physically Disabilities Enrolled in High Schools; Analysis of Consultation Records in the Center Functions of Special Needs Schools.
57	Rika ENOKIDO, Atsuko SATO and Hideki SAKAI A Comparison of Presentation-Practice-Production and Task-based Language Teaching Approaches for L2 Vocabulary Learning of Sign Language
73	Hayato KISHIRA, Ryo TADOKORO, Yutsuki NAKAMAE and Hiroki YONEDA Characteristics of the Names of Special Classes and Special Needs Classes for Students with Intellectual Disabilities in Tokyo’s 23 Wards
	Practical Report
87	Yuta MIYANO A Case Study on Learning to Type with Typing Training Software and Opportunities to Use of Typing after Learning to Type for a Child with Intellectual Disabilities: Improving Typing Speed and Typing in Everyday Situations